

自立生活センター・小平 通信

生活を豊かに彩る「ゆにーく ゆあ らいふ！」

SSKP

ゆにーく YOUR らいふ



[表紙写真] もうやめようよ！障害者自立支援法 10.31 全国大フォーラム
(2008年10月31日開催)

好評連載中！

- ぶっちゃんの子育て奮闘記
- 田無タワー
オカンとボクと、時々、オトン
- かあかとCIL

【報告】

- ・もうやめようよ！障害者自立支援法 10.31 全国大フォーラム
- ・鉄道会社交渉 / 赤い羽根共同募金
- ・自立生活プログラムリーダー養成集中講座
- ・つきの道 / ピアカウンセリング集中講座

目次

2008年

12月号

自立生活センター・小平 通信 SSKP

ゆにー<yourらいぶ

- p 3 **報告**もうやめようよ！ 障害者自立支援法
10.31 全国大フォーラム
- p 4 **報告**鉄道会社交渉 その1
- p 5 **報告**赤い羽根共同募金
- p 6 **報告**自立生活プログラムリーダー養成集中講座
- p 7 **報告**「つきの道」
- p 8 **報告**ピアカウンセリング集中講座
-
- p 9 **連載**ぶっちゃんの子育て奮闘記⑤
- p 10 **連載**田無タワー
オカンとボクと、時々、オトン⑤
- p 10 **連載**かあかとCIL
- p 12 定年
-
- p 13 活動報告
- p 17 編集後記・地図
- p 18 サービスのご案内

報告

もうやめようよ！ 障害者自立支援法

10.31 全国大フォーラム

久保田さおり

10月31日に「もうやめようよ 障害者自立支援法」ということを掲げて、全国一斉大行動が行われました。日比谷公園野外音楽堂に、全国から6500人が集まり、入りきらないほどでした。前日には、国会議員への要請活動を行いました。その呼びかけに応じて参加された各政党の国会議員が最初に挨拶されました。



その後、全国の実態報

告ということで、各地で起きている問題の報告がありました。自立支援法には国庫負担基準があるため、必要なヘルパー時間数を市町村からもらえない、ヘルパーの給料が安い、ヘルパーが確保できないことで地域の中で生きていくことができないということ、応益負担の問題では、負担が払えないため、今までのようにサービスが使えないことについての実態があり問題となっていることを各地の方が話されました。

最後に交渉団を送り出しましたが、厚生労働省への交渉団に加え、今回は財務省に直接訴えようということで、財務省との交渉団にエールを送り、また全国で自立支援法に対する一斉訴訟を起こすため、原告の方たちを送り出しました。

参加者に、NO と書かれた赤い紙が配られ、厚生労働省に向けて全員で掲げ、野外音楽堂が真っ赤になりました。

集会が終わった後、国会議事堂方面に向けて、シュプレヒコールをしながらデモ行進をしました。

一緒に参加した方は、風邪をおして来てくれていたので、寒さが心配でしたが、当日は曇りで、少し日が差していて、気温も低くなく、ずっと外にいてもすごしやすかったので安心しました。私たち自立生活センターのほかに、施設、作業所、いろんな分野の福祉関係者が集まっていました。デモ活動にはよく行きますが、全国規模のデモ活動に参加したのは今回が初めてだったので、圧倒されました。みんな自立支援法で困っているんだと、あらためて感じました。

報告

鉄道会社交渉 その1

山崎涼子

木枯らしの寒さが身にしみる季節になりましたが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

さて、鉄道は皆様におかれましてはなくてはならない交通網ですよね。私共の自立生活センター・小平に足を運んで頂くためにも必要な鉄道です。その鉄道は私の生活にも大切な交通手段なのです。センターに行くまでは一度乗り換え、25分くらいでセンターのある駅に着きますが、帰りの乗り換えホームにエレベーターがない為、一度改札を『乗換えでえす！』と一声掛け開けてもらいます。次に駅のロータリーにある駅前デパート管理のエレベーターを使用し2階改札に着きます。その改札でまた『乗り換えで〇〇までです！』と一声掛け、さらに改札の中にあるエレベーターでホームに降ります。なので、この乗り換えだけで10分はかかります。雨の日も傘が必要な乗換えなのです・・・

実は平成18年から乗車拒否、車両乗降時に必要なスロープが用意されていなく、車両から出られない。また、乗りたい電車の時間を伝えホームで待っていても駅員は来ず、結局伝えておいた時間の電車には乗れずじまいなことが多々ありました。その都度理由を聞いても「忙しい」「他の乗客の対応があった」さらには、朝夕の乗客が多い時を避けて利用して欲しいとまで言われる。皆さんいかがでしょうか？当事者の方はどこかでこのような対応をされて約束に遅れたり、悔しい思いをされた方がおられるのではないですか。介助者の方も介助中にこのような対応に不便を感じたり、出くわしたり、共に悔しい思いをされたことがあるのではないのでしょうか？車椅子に乗っておりますと車両乗降時に車両とホームの間にタイヤが挟まらないようにスロープをかけてもらいます。これは駅改札に設置してあります窓口で、駅員に乗りたい電車と時間、乗り換え駅と下車駅を伝えスロープが必要な旨を各駅に連絡してもらい、それにより安全にスムーズに移動が可能になるはずなのです。

車椅子利用者だからというだけでなぜ乗りたい時間の電車に乗れないのか訴えてきましたが、その都度社員教育を定期的に行っている。言葉遣いに気をつけるように改めて教育する。の繰り返しの中、車両に挟まれる事故が起きました。これは乗りたい電車を言ったにもかかわらず来てくれず、電車を2本見送り、さらにそれを無視されたためなんとかスロープなしで乗り込み、車椅子が半分車両に入った所でドアを閉められてしまったのです。そして車椅子の外側に下ろしていた手に怪我をしました。

これによりB市にありますA鉄道本社に対応の改善を求める要望書を提出し、お客様担当と話し合いをもちました。が、怪我に関しての謝罪はあったものの、他の返答は努力しているし、サービス介助士になる為に研修もしているとの残念な返答ばかりでした。

サービス介助士とは、車椅子の押し方、視覚障がいの経験（眼マスクをつけて歩いてみる）等、筆記の講習があり、一定時間の研修に参加した後サービス

介助士となり、各駅に配置されるのだそうです。しかし介助だけが業務ではないですし、資格を持っている職員も上記のような対応であることも事実なのです。

私は日々起こっている差別的な対応を本社のビルの中からはなく、直接目でみて、現場でどのようなことが起こっているか、知ってもらふ必要があると思ったのです。安全とは何か、差別とは何かA鉄道の職員全てに問いたかったのです。そして、私達当事者も差別なのだとして強く社会に訴えていかなければ何も変わらないと感じています。

このような運動は労力を要し、短期間で改善にまではなりませんし大変疲れるものです。しかしこの交渉に関係した障がい当事者、健常者全員が諦めることはない、例え悔しさが我慢できる範囲のものであっても、大抵がその悔しさの中に差別があるのです。差別は許さない！ただその気持ちだけでA鉄道を変えられるということに希望を持ち挑んでいくことになりました。

今回は交渉に至るまでの経緯の報告です。次号は、鉄道会社に提出した要望書の内容と、要望書を提出した時の交渉の状況を報告させていただきます。



報告 赤い羽根共同募金

落合勇平

今年もやってきた、あの季節。そう、赤い羽根共同募金です。今年も10月中にまとめて3回ほど募金活動を行いました。場所は花小金井駅の改札前。利用者の方にもご協力をしてもらいました。3回の募金活動のなかで、感じたことを書きたいと思う。



自分の気持ちというものはすぐに人に伝わるのでしょうか。自分の気持ちの入れ方によって、募金してくれる人、見ないで通り過ぎてしまう人という違いが出てくる気がしました。「赤い羽根共同募金です。ご協力お願いします。」という一言ですが、されどこの一言にどれだけの気持ちを込めるかで反応が変わる。

一日の仕事を終え、疲れた人たちがドッと改札から出てくる。そんな人たちに向かって、どんな気持ちで声かけをするか。当たり前だけど、気分よく、さわやかに、気持ちを込めた方が、相手も心を動かすというもの。立ち止まって、しまっていた財布をわざわざ出し、「ここでいい？」と募金箱に小銭を入れてくれる。

自分がどんな気持ちで接するかで、周囲の人はいくらでも変わるということに改めて感じた募金活動でした。

報告

自立生活プログラム

リーダー養成集中講座

小泉信治



【写真】

(前列右から)

永田さん

渡辺さん

リーダー竹島

後列は永田さんと

渡辺さんの介助者

皆さんこんにちは。去る9月1日～4日と10月28日～30日に自立生活プログラムリーダー養成集中講座が行われました。毎年2回行われるこの講座ですが、今回は20年度一回目と言うことで、受講生2人を迎え、リーダー6名で行いました。例年ですと5～6名の受講生を迎えて行うのですが、今回は2名と少なく、少し淋しいかなと思いましたが、その分充実したものが出来たかなと思います。

リーダー養成集中講座とは今後自立生活プログラムを行う予定の自立生活センターの方々や自立生活センターをこれから作ろうという方々に、自立前に受ける基礎編の自立生活プログラムの行い方を実際の講座にそって伝えて行くものです。実際の長期プログラムは一日3時間半×11回行うのですが、これを約6日間に凝縮して行うので、いろんな意味で中々の体力勝負かなと思います。私は年一回行うプログラムで落ち着いて受講生の顔が見られるようになったのは5回目くらいからでした。それまではカンニングペーパーとにらめっこしながら自分が話すことでいっばいっばいだったので、受講生の顔なんて見れてなかったと思います。私が新人だったころにもこんな養成講座があったらなとたまに思うのと同時に、こんなことを知りたかったなと思うことを盛り込みながら、今は行なっています。今後プログラムを行う予定や、行うに際して不安や疑問などが有る方も、無い方も是非小平に足を運んでいただけたらと思います。リーダー一同心よりお待ちしております。

報告

「つきの道」

浅川都

森の木々も色づき、落ち葉が風に舞う季節となりました。寒くなりましたが、みなさまお変わりなくお過ごしでしょうか？

さて、自立生活センター・小平では、8月より月に一度『つきの道』を行っていますので、ご報告させていただきます。

11月11日火曜日、研修室で行いました。天気は曇りで肌寒かったので、参加してくれる人が少ないかなと心配していましたが、数名の方が参加してくれました。急に寒くなったので、風邪をひいている人も多いかなと思い、料理の準備をしながらも、どれくらいの方が来てくれるんだろうかと考えたり、だれも来てくれなかったらどうしようなどと考えていたので、うれしかったです。

食事や飲み物は、用意したメニューの中から選んでいただきます。注文が入ったらなるべくお待たせしないように、間違えないようにと思って少し緊張しましたが、間違えることもなくてよかったです。

部屋は、雰囲気作りのために、灯りを落として少し暗めの照明になっています。初めに暗くしすぎて、メニューが見えないということもありましたが、今はとてもいい雰囲気になっていると思います。

参加された方たちも、ゆっくりと食事をしたり、おしゃべりをしたりと、夕方からの時間を楽しんでいました。私も、普段なかなか話す機会が少ない方とも話すことができ、とても楽しかったです。

また次回の「つきの道」にもぜひ参加してください。お疲れさまでした。

「つきの道」とは・・・自立生活センター・小平で今年度から始めた、小平市周辺に住む障がいのある方との交流を目的とした、月1回のイベント。作業所に通っている方など、昼間のイベントに参加できない方も来ていただけるよう、夕方5時から8時に行っています。

報告

ピアカウンセリング集中講座

竹島圭子

今年度ピア・カウンセリング集中講座は11月6日(木)から8日(金)まで2泊3日で多摩障がい者スポーツセンターで開催しました。

参加者4名とリーダー竹島、久保田、オーガナイザー浅川の7名で講座を行いました。身体障がい、精神障がい、視覚障がいと、障がい種別もバラエティに富み、出身地域も青森県から愛知県までいろいろな地域の方が参加されました。

1日目はピア・カウンセリングの歴史やピア・カウンセリングの目的、約束事などピア・カウンセリングを学ぶ為の基本を話しました。夕食後人間の本质について話し合いセッションを行いました。

2日目は前日のおさらいの後、感情の開放、障がいを持っていることについてセッションしました。自分の今の気持ちを話すことや相手の話を聞くことに慣れ、長い時間のセッションに取り組みました。夜には交流会を行いました。沢山のセッションの後のせいかお互いに打ち解け楽しい時間を過ごすことができました。

3日目は自立生活センターと自立生活プログラムについて話をしました。その後で今困っていることをテーマにセッションをしました。その中で出てきた問題を今度はロールプレイにし皆で話し合い考えました。アプリケーションの後に感想を聞くことが出来ました。

「ピア・カウンセリングをもっと学びたい、自分の生活の中でピア・カウンセリングを取り入れたい、地域で広めたい」等活発な意見がでました。

2日目に体調を崩された方がいらっしゃいましたが、次の日には元気に参加されホッとしました。いろいろな背景の方たちと知りあえセッションを通じて少し分かり合えたりと、有意義な時間を持つことができ、集中講座を終わる事が出来ました。



■ぶっちゃんの子育て奮闘記⑤

片山由理子

～ そんなのあり～?! ～

一人暮らしを始めてからずっと住んでいたアパートの大家が連絡不能になり、競売にかけられ立ち退きになり、引越しをする事になりました。(とんずらするんじゃねえー!!)

あちこちの不動産屋を回り、物件を見せてもらいましたがなかなか自分に合った部屋が無く立ち退きの期限は迫ってくるので、仕事の帰りや休みの日を部屋探しばかりしていました。

ある不動産屋は障がい者だというだけで物件があるのに無いと言い、門前払いでした。なんだよと怒りながら入り口にある看板を蹴って出てきました。

そういうこともあり、泣きそうな思いで歩きながら空いているアパート・マンションを見ては管理している不動産屋に電話をし内件していました。しかし、段差があったりトイレが使いづらかったりでなかなか良い物件が見つからず、どうしようと思っていたら偶然空き部屋が目に入り、不動産屋へ電話をかけ中を見せてもらったところ使い勝手が良さそうで、事務所へも徒歩で10分程度で日常の買い物にも困らない場所だったのでそこに決めました。でも、大通りに面していたのでかなりうるさいのが玉に傷でした。(笑)

その不動産屋は初めてのところでしたが、私の話をきちんと聞いてくれたり融通が利き借りたマンションの正面玄関に段差があつてスロープを付けるのは構造上無理だったのですが、裏口の階段だったらコンクリートでスロープにしてもいいよと言ってくれました。普通、取り外しが利くものと言われるのですが、階段を無くしてもいいと言ってくれたのはとても印象的でした。なかなかこういう良い不動産屋は無いですね。

しかし、立ち退きとか大家が居なくなったりする経験をするのは、珍しい事ですよ?

～次号に続く～



■田無タワー

オカンとボクと、時々、オトン⑤

落合勇平

前号で、ある本を取り上げました。内容はある女性の主人公が今現在抱えている人間関係のトラブルを解決していくというもの。そのトラブルは過去に親との間にあった経験でできたトラウマが原因となっているとして描かれています。そしてその女性は葛藤しながらも親に謝罪と感謝の気持ちを伝え、心のしこりを解かしていく。私もその女性のように親に謝罪と感謝の気持ちを伝えようと思っているというところで前号は締めくくった。

その顛末を書きたいと思う。前号の原稿を書いた後、親に会ったのは数回。やはりすぐには言えなかった。別れる間際に言おう、言おうと思っていたのにどうしても出てこない「ごめん」の一言。次に会ったら必ず言うつもりなのになかなか言えない。もし言えないまま、万が一にも親か自分のどっちかが死んだら二度と言えない一言なんだと思い直して、原稿を書いた後から二回目でやっと言えた。「今までごめん。意固地な態度で接したこともあったね。」の言葉を言ったら、なんだか気持ちが軽くなった。素直に生きようって心底思った。

この世にいるかけがえない人とのつながりを許せないの気持ちで満たして過ごすよりも少しでも多くの時間を笑顔で過ごしたいと思う。

■かあかとCIL

コーディネーター 岡村千重子

昨年、保育園で娘がお友達を叩いてしまうという出来事がありました。きっかけはたいしたことではなかったのですが、ちょっと気に入らないことがあり、突然お友達のほっぺたを平手打ちしてしまった、とのこと。お迎えに行くとすぐ、先生からその状況説明と「すぐ仲直りできたし、大丈夫ですよ」というフォローがありました。初めてのことで私も動揺しましたが、出来事そのものよりも胸にささったのは、帰り際に先生が私に気遣いながらそっと言った、「かあか、みいちゃんと仲良くしてあげて下さいね」という言葉でした。

ちょうど1年前。仕事が今より忙しかった時期でした。

確かに、娘はぐずぐずすることが増えていました。でもそれを見てイライラしては悪循環にはまるばかりで、自分が疲れて余裕がなくなり「きついかあか」になっていることには気づいていませんでした。まさに娘の様子が、私の良くない状態そのもので、娘にとって十分な「仲良く過ごす」時間はとれないままそれだけの負担をかけていたのです。

新しいヘルパーさんの採用時の研修や、何かの機会によくお話しすることですが、利用者との関係を通して、まるで相手が自分を写す鏡であるかのように自分自身を思い知らされる、それがこの介助の仕事です。長い時間を1対1で過ごすから嘘やごまかしがきかない、そんなもの見透かされてしまうか、自分が疲れてしまう。だから、本当の自分を隠すのには限界が来てしまう…。学生の頃のアルバイトを含めこの仕事をはじめて13年、自分自身の経験としてずっとそれを感じてきました。

家族との関係でもまさにそう…。より甘えがあって遠慮がない分、相手を傷つけてしまうことも多いし、それがもっとわかりやすくはっきり自分に返って来る気がします。子供の様子を見れば、私がどんな風にかかわっているかが見えるのだと思います。

自分がどんな人間なのかは、この歳になれば大体はわかっているつもり…。それだから余計にやっかいだったりもしますね。例えば「せっかちでマイペース。人にそれをおしつけがち」な私（の、これはほんのごく一部）がいます。自分でそう分かっているつもりでも、人から言われたり気づかされるのは「逃げられない感じ」がとても強く、はじめはきつく嫌でした。嫌だから、見ないふりをした時期も正直ありました。

でも結局見ないわけにはいかないもので、しゅしゅ見てみることにして、見てみると、なるほど確かにそうだなと思ったり、「私って、そういう人間なんだ」なんて、妙に感心してしまったり。慣れなのか、葛藤の末だからなのか、ものによってかかる時間が違いますが、案外なんとか受け止められるものだ、ということもわかりました。

親子の関係も利用者ヘルパーの関係も、真剣に向き合うからこそそこにまで行きつくのだと思います。真剣さに比例して、返って来るものもキツさが増しますが、逆に言うと、世の中に数多とある職業の中で、こうした発見を与えてくれる仕事はそうない気がします。それがこの仕事の大変さでもあり、それを上回る魅力でもあります。

娘がお友達をはたいてしまったこと、そうなるまで何も気づかなかったことは大きなショックでしたが、その原因の大部分が私にあると素直に受け止められたのは、この仕事を続けてきたおかげだと感じています。自分自身について考え振り返るということを何度もしていたから、ただ辛いだけの思い出にならずに経験として残せたのだと思います。

仕事をし、子育てをする中で感じることには共通することがとても多く、そんなことをこの「かあかとC I L」の中で綴ってきました。来年1月に第2子の出産を控えしばらく現場を離れますが、来年の今頃、私を「かあか」と呼んでくれる存在がもう1人増えて戻ってくる予定です。それまで暫くお休みしますが、皆さん、またお会いするそのときまでどうかお元気で！私はつかの間の「専業かあか」を楽しんでいますね。

■定年

コーディネーター 馬場真美

利用者の方、介助者の方のほとんどが、私の子供の年齢（長男 36 歳・次男 33 歳）より若いくらいです。そして私は少し前の時代ならあと 2 年で定年です。（今は事業者は 60 歳定年というのは認められず、62 歳以上の定年を設定するか、再雇用の制度を設けなくてはなりません）

しかし幸か不幸か理事という立場には定年は無いとのこと。

■股関節が痛くて、C I L 小平事務所のドアの鍵を開けるのにかがむ動作がきついで鍵を開け閉めする役は出来るだけ避けたい私。

■50 歳を過ぎて喘息であることがわかり、医者から「年がいったからの喘息はだんだんひどくなるからたいへんだよ」とおどかさされた私。

■血圧だけが高めだった頃は近くの診療所で薬をもらっていたのに、血糖値まで高くなって、《昭和病院送り》になった私。

■5 年前は、人生 100 年としたら、今まで生きた分と同じだけ、これから先の人生がある！！ まだ、いろんなことが出来るじゃない！！ そして退職したら世界中を旅して、ぜひ南極へも行こうと本気で思っていました。

じゃあ今は？ 「南極・・・無理無理・・・。歩くのきついし、寒いのもダメかも」と思い始めています。

それでも人は夢を見るもの。あれやこれやと将来をいかに楽しく過ごせるようにするかを考えています。保険には入っているものの、葬式代くらいはためなきゃ！と思いついて 2 年前から財形貯蓄をはじめたり（若い頃とは貯金の目的が変わっているのが面白いですね）、知り合いのご両親が整骨院を開いて、そこでフェイスマッサージをやるといので、たるんだ肌を引き締めに行こうかと考えたり。

でも、ちょっと気が付きませんか？ 夢というのは「無いものねだり」ということかもしれないです。血糖値・高血圧を平常にするための運動、食事管理をしよう！とか喘息対策で禁煙しよう！とかは「夢」とは言いがたいです。

こんな風な夢見る私に、事務所の多くの人たちは、高齢者部門を立ち上げたら？とささやきます。実は私にとってもそれは結構面白いかも知れないと思えることでもあります。ヘルパーとして働くという立場から、ヘルパーに来てもらうという立場になる可能性があり、一人の人間が両方の立場を経験でき、それを派遣という事業に良くも悪くも反映できるかもしれないということも醍醐味です。

自分の考え・気持ちが平静でいられるのか・・・どんな自分に変身するのか、変身しないのか。若い頃の「夢」とはだいぶ違いますが、地に足つけた後期高齢者人生設計を考えようとしている気がします。

《 活 動 報 告 》

2008年9月

- 2日(火) リーダー養成集中 ILP 講座/主催: 自薦ヘルパー推進協会(小泉・竹島・久保田)
つきの道
- 3日(水) リーダー養成集中 ILP 講座/主催: 自薦ヘルパー推進協会(小泉・竹島・久保田・山崎)
コーディネーター会議
- 4日(木) リーダー養成集中 ILP 講座/主催: 自薦ヘルパー推進協会(小泉・竹島)
ピア・カン ILP 会議
- 5日(金) 職員会議
報告検討会議
- 9日(火) 重度訪問介護従事者養成研修講師派遣(川元・岡村・田中・岸本)
- 10日(水) 総務会議
コーディネーター会議
重度訪問介護従事者養成研修講師派遣(田中・宮下)
- 11日(木) ピア・カン ILP 会議
- 12日(金) 報告検討会議
コーディネーター研修
- 13日(土) 講演「障がい者自立生活の原点に学ぼう」/主催: ハンズ世田谷(山崎・中山)
- 15日(月) 重度訪問介護従事者養成研修講師派遣(落合・馬場)
- 16日(火) 利用者会議
つきの道
個別 ILP(小泉)
- 17日(水) 総務会議
コーディネーター会議
個別 ILP(小泉)
- 18日(木) ピア・カン ILP 会議
- 19日(金) 報告検討会議
- 22日(月) 重度訪問介護従事者養成研修講師派遣(竹島・田中・三澤)
- 23日(火) 利用者会議
- 24日(水) 総務会議
コーディネーター会議
重度訪問介護従事者養成研修講師派遣(田中・二村)
- 25日(木) ピア・カン ILP 会議
個別 ILP(竹島)

- 26日(金) 報告検討会議
30日(火) 利用者交流会
北海道・東北ブロック研修講師派遣/主催: 自薦ヘルパー推進協会
(川元・久保田・馬場)
30日(火) ~ 10月3日(金) 長期自立生活プログラム講師派遣/主催: 自立生活センター松山(小泉)

2008年10月

- 1日(水) コーディネーター会議
北海道・東北ブロック研修講師派遣/主催: 自薦ヘルパー推進協会
(川元・久保田・馬場)
2日(木) ピア・カンI L P会議
個別相談(竹島)
北海道・東北ブロック研修講師派遣/主催: 自薦ヘルパー推進協会
(川元・久保田・馬場)
3日(金) 報告検討会議
北海道・東北ブロック研修講師派遣/主催: 自薦ヘルパー推進協会
(川元・久保田・馬場)
4日(土) バリアフリーリーダー養成講座/主催: D P I (山寄)
5日(日) バリアフリーリーダー養成講座/主催: D P I (山寄)
6日(月) 重度訪問介護従事者養成研修講師派遣(川元・田中・三澤)
7日(火) つきの道
全国自立生活センター協議会常任委員会会議(川元)
8日(水) コーディネーター会議
自立生活プログラム講師/主催: 自立生活センター・濱松(竹島)
重度訪問介護従事者養成研修講師派遣(岡村・田中)
9日(木) ピア・カンI L P会議
個別相談(川元)
赤い羽根共同募金活動
10日(金) 職員会議
報告検討会議
赤い羽根共同募金活動
14日(火) 全国障がい者介護保障協議会常任委員会会議(川元)
利用者会議
15日(水) コーディネーター会議
16日(木) 交渉: 小平市(小泉・佐藤・栗田)
ピア・カンI L P会議
個別I L P(竹島)
17日(金) 報告検討会議
19日(日) 訪問介護従業者2級養成研修講師派遣(竹島・新井)

- 20日(月) 中四国中部ブロック研修講師派遣/主催: 自薦ヘルパー推進協会(川元・馬場)
- 21日(火) 利用者交流会
中四国中部ブロック研修講師派遣/主催: 自薦ヘルパー推進協会(川元・馬場)
- 22日(水) コーディネーター会議
中四国中部ブロック研修講師派遣/主催: 自薦ヘルパー推進協会(川元・久保田・馬場)
- 23日(木) ピア・カン I L P 会議
利用者交流会会議
個別相談(竹島)
- 24日(金) 報告検討会議
訪問介護従業者2級養成研修講師派遣(新井)
- 27日(月) 重度訪問介護従事者養成研修講師派遣(川元・新井・田中)
- 28日(火) 重度訪問介護従事者養成研修講師派遣(川元・田中)
訪問介護従業者2級養成研修講師派遣(新井)
- 29日(水) 総務会議
コーディネーター会議
重度訪問介護従事者養成研修講師派遣(田中・中山・二村)
リーダー養成集中 ILP 講座/主催: 自薦ヘルパー推進協会(竹島・山崎・久保田)
- 30日(木) リーダー養成集中 ILP 講座/主催: 自薦ヘルパー推進協会(竹島・小泉・久保田)
- 31日(金) リーダー養成集中 ILP 講座/主催: 自薦ヘルパー推進協会(竹島・久保田)
報告検討会議
「もうやめようよ! 障害者自立支援法 10.31 全国大フォーラム」(久保田・中山)

2008年11月

- 1日(土) 訪問介護従業者2級養成研修講師派遣(竹島・久保田・新井)
- 2日(日) 訪問介護従業者2級養成研修講師派遣(新井)
- 4日(火) 重度訪問介護従事者養成研修講師派遣(川元・岡村・田中)
訪問介護従業者2級養成研修講師派遣(竹島・久保田・新井)
- 5日(水) 総務会議
コーディネーター会議
重度訪問介護従事者養成研修講師派遣(田中・三澤)
- 6日(木) 八王子聴覚視覚障がい者サポートセンター訪問(山崎・落合)
訪問介護従業者2級養成研修講師派遣(川元・馬場・新井)
ピア・カウンセリング集中講座(竹島・久保田・浅川)

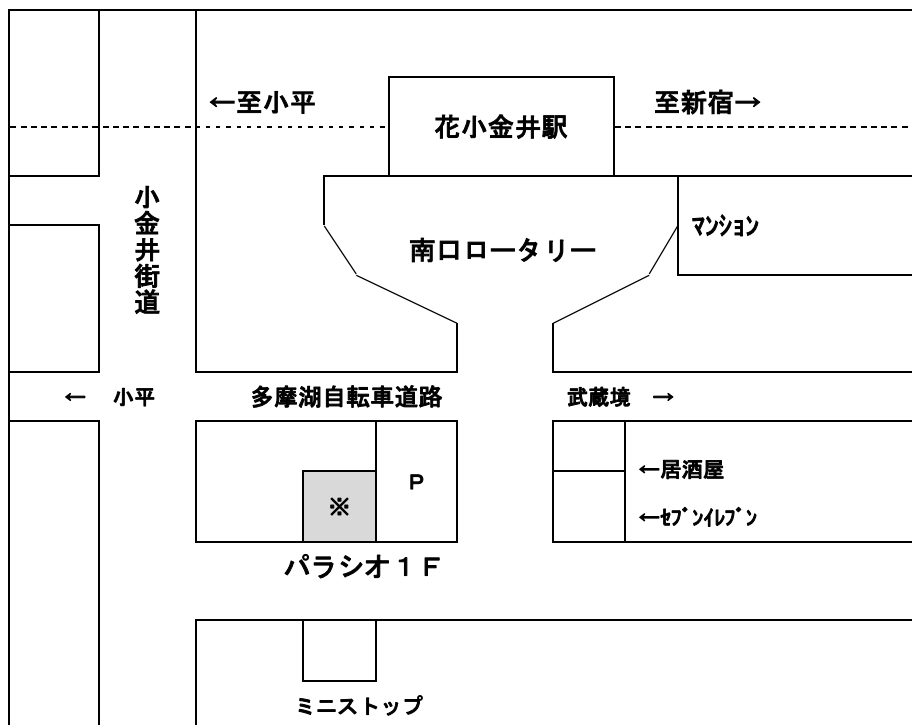
- 7日(金) ピア・カウンセリング集中講座(竹島・久保田・浅川)
職員会議
報告検討会議
- 8日(土) ピア・カウンセリング集中講座(竹島・久保田・浅川)
- 10日(月) 重度訪問介護従事者養成研修講師派遣(川元・竹島・岡村・田中)
- 11日(火) 鉄道接客マニュアル見直し打ち合わせ
つきの道
九州ブロック研修/主催: 自薦ヘルパー推進協会(川元・久保田・馬場)
- 12日(水) コーディネーター会議
重度訪問介護従事者養成研修講師派遣(田中・三澤)
九州ブロック研修講師派遣/主催: 自薦ヘルパー推進協会(川元・久保田・馬場)
- 13日(木) 交渉: 鉄道(竹島・山崎・落合・浅川)
九州ブロック研修講師派遣/主催: 自薦ヘルパー推進協会(川元・久保田・馬場)
個別相談(竹島)
- 14日(金) 報告検討会議
九州ブロック研修講師派遣/主催: 自薦ヘルパー推進協会(川元・久保田・馬場)
- 18日(火) ピア・カンI L P会議
- 19日(水) コーディネーター会議
個別相談(竹島)
- 20日(木) 個別I L P(竹島)
小金井公園調査(大淵・浅川)
- 21日(金) 報告検討会議
- 24日(月) ~ 27日(木) 宿泊体験プログラム(小泉)
- 25日(火) 重度訪問介護従事者養成研修講師派遣(竹島・馬場・田中)
利用者交流会/外出食事会
- 26日(水) コーディネーター会議
重度訪問介護従事者養成研修講師派遣(宮下・田中)
清瀬療護園自立生活プログラム(小泉・大淵)
- 27日(木) 障がい者職員自立生活プログラム中級編
- 28日(金) 報告検討会議

■◆□◇■◆□◇■◆□◇ **編集後記** ■◆□◇■◆□◇■◆□◇

冬の冷たい空気が身に染みる今日このごろですが、皆さん風邪など召されていませんか？今年も風邪とインフルエンザが大流行しているみたいで、私もすっかり流行りに乗ってしまいました。この季節、風邪の予防に手洗いうがいにはかせませんよね。それから、人混みに行く時にはマスクをするとこれも予防になりますよ。風邪菌などは湿気に弱く、マスクに着いた息の湿気が菌を寄せにくくするそうです。今年も残りわずか。風邪に負けず、良い年をお過ごしください。そして来年も本誌をどうぞよろしく願いいたします。

(編集長 小泉)

■ **自立生活センター・小平 地図**



24時間・365日介助派遣サービス

近隣の8市にまたがって身体障害者、知的障害者、精神障害者にサービスを提供しています。(初めてサービスを利用する場合は、利用規約等について事前に説明する場を設けさせていただきます。)

- ・ 自費利用 ①知的・ガイドヘルプ ￥1,450/時
- ②家事援助 ￥1,450/時
- ③日常生活支援 ￥1,500/時
- ④身体介護 ￥1,800/時
- ・ I L P、ピア・カウンセリング利用 ご相談ください。
- ・ 自立支援法によるヘルパー利用 ご相談ください。

障害者生活支援事業サービス

◇介助制度、手当、住宅改造、生活保護などの制度利用の申請のサポートならびに生活に関わるあらゆる相談をお受けします。

- ・ 電話相談：365日、9時～22時
- ・ 面接相談：月～金、10時～17時

◇ピア・カウンセリング(集中講座、個別)

◇自立生活プログラム(生活力、社会性を高めるプログラム)

長期プログラム、短期プログラム、個別プログラム、単発プログラム

プログラムテーマ例…障害って何?・介護を頼もう(介護者との関係)・
制度学習・フィールドトリップ・お金の管理・調理実習 …など

◇宿泊体験—民間のアパート(自立生活体験室)に泊まって、自立生活を体験するプログラムです。

◇自立生活をめざすための住宅サービス(アパート等の住居の確保)

◇広報誌の発行(制度や自立生活のノウハウに関する情報提供、情報交換)

各サービスを利用される方には、協力会費を頂いております。
入会ご希望の方は、下記までお問い合わせください。
会費：年額4,200円(年度途中から入会の場合月額350円)

《編集》自立生活センター・小平

〒187-0003 東京都小平市花小金井南町
1-26-30 パラシオ102
TEL/042-467-7235 FAX/042-467-7335
E-MAIL: cilkodaira3@hotmail.com

《発行所》

障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧6-26-21
(定価 100円)